

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成31年4月4日(2019.4.4)

【公表番号】特表2018-504134(P2018-504134A)

【公表日】平成30年2月15日(2018.2.15)

【年通号数】公開・登録公報2018-006

【出願番号】特願2017-541607(P2017-541607)

【国際特許分類】

A 2 4 F 47/00 (2006.01)

【F I】

A 2 4 F 47/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成31年2月8日(2019.2.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エアロゾル発生物品を受ける能力のある細長いエアロゾル発生装置であって、

前記エアロゾル発生物品を加熱するためのヒーターであって、前記ヒーターが前記細長いエアロゾル発生装置に対して長軸方向に延び、また前記エアロゾル発生物品の内側部分を貫通するように構成されているものと、

前記エアロゾル発生装置内に受けられたエアロゾル形成物品を抽出するための抽出装置であって、前記抽出装置が第一の位置と第二の位置の間で前記エアロゾル発生装置に移動できるように結合され、前記第一の位置が前記エアロゾル発生物品と接している前記ヒーターによって画定された動作位置であり、また前記第二の位置がエアロゾル発生物品と分離されている前記ヒーターによって画定される抽出位置であるものとを備え、

前記抽出装置が前記エアロゾル発生物品を受けるくぼみを備え、前記抽出装置が前記第二の位置と前記第一の位置との間を移動する時に前記ヒーターが前記くぼみを貫通できるように、第一の開口部が前記くぼみの端壁を貫いて画定され、

前記空気流チャネルの入口が前記第一の開口部の半径方向外向きに位置付けられており、前記抽出装置を貫く気流経路は、該気流経路の少なくとも一部分について前記ヒーターに向けた半径方向の空気の流れを伴い、

(a) 前記空気流チャネルの前記入口が前記くぼみの側壁内に画定される、又は、

(b) 前記空気流チャネルの前記入口が前記端壁の半径方向に最も外側の部分内に画定される、又は、

(c) 前記空気流チャネルの少なくとも一部分が前記端壁内を半径方向に延びる、細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 2】

前記第一の開口部が前記ヒーターに対して 0 . 5 mm 以下の隙間が許容される寸法である、請求項 1 に記載の細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 3】

前記エアロゾル発生物品が抽出された時、前記エアロゾル発生物品からの破片を前記抽出装置内に保持するように、前記第一の開口部および前記空気流チャネルが配置されている、請求項 1 ~ 2 のいずれか 1 項に記載の細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 4】

前記エアロゾル発生物品からの破片が前記エアロゾル発生装置内に蓄積できないように、前記抽出装置が前記第一の位置にある時に、前記端壁の外側面が前記エアロゾル発生装置の一部分に隣接する、請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 5】

前記抽出装置を洗浄のために前記エアロゾル発生装置から取り外すことができる、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 6】

第一の空気流チャネルおよび第二の空気流チャネルを備え、前記第一および第二の空気流チャネルへの入口が前記抽出装置の反対側に位置する、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の細長いエアロゾル発生装置。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の細長いエアロゾル発生装置と、エアロゾル発生物品とを備え、前記エアロゾル発生物品が、前記ヒーターによって加熱された時に吸入可能なエアロゾルを発生するエアロゾル形成基体を備える、エアロゾル発生システム。

【請求項 8】

前記エアロゾル形成基体が均質化したたばこシートを備える、請求項 7 に記載のエアロゾル発生システム。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

抽出装置を貫く気流経路は、気流経路の少なくとも一部分についてヒーターに向けた半径方向の空気の流れを伴うのが好ましい。第一の開口部を通して落ちる破片は、したがって気流経路を塞がない。破片は気流経路を内側で塞ぎうるが、抽出装置は、装置から取り外して、例えば水で洗うことにより、こうした任意の破片が簡単に除去できることが好ましい。